

ベトナムの町並みは、いつも日常で見ている日本のものとは異なるものだった。

建物の間口はとても狭く、建物が細長くなっており、道路沿いに建てられている建物を見ると建物と建物の間には隙間というものが無く建物同士が接していた。

両隣に建物がなくても今後建物が立つことを前提にしている為か、隣地側には開口部が見られないこともしばしばあった。

こういった町並みの中でもっとも印象的だったものは街路空間である。建物が細長く狭い為か、ベトナムでは外部も無駄な場所ではなく生活空間の一部となっていた。

商売をしているところでは商品は歩道までしみ出し、お店の人は椅子を外部に持ち出しそこに座って客を引き、食事そのまま外で済ましてしまう。また、歩道で料理の準備を始めそこに人が集まり、歩道がそのまま屋台のような役割となる。時間帯によっては歩道だけでなく車道すら人の生活の場となる。

今回訪れたハノイ・ホーチミン両方でこういった光景を目にした。ベトナムでは歩道・車道はただの移動の手段ではなく、人々の交流の場、活気あふれる小さな広場のような役割も合わせ持っていると感じた。

